

2018年7月5日

定期的ながん検診受診で、早期発見・早期治療を
「内視鏡検査に関する意識アンケート」結果
 ～7月14日は内視鏡の日～

オリンパス株式会社（社長：笹 宏行）は、「内視鏡検査に関する意識アンケート」の2018年調査結果を、当社が運営する健康応援ポータルサイト「おなかの健康ドットコム」で本日公開します。

当社は、内視鏡および内視鏡検査^{*1}の理解促進を目的とし、「内視鏡の日」^{*2}に合わせた意識調査を毎年行っています。2018年に実施したアンケートでは、53,429人の方から回答がありました。主なアンケート結果は以下の通りです。結果の詳細は、「おなかの健康ドットコム」でご覧いただけます。

●アンケート結果の概要

1. 胃がん、大腸がん、肺がん検診全てにおいて、女性は男性よりも受診経験者が10ポイント少ない。
2. 日本における男性の死亡者数が最も多いがんについて、認識を誤っている人が、70%超。女性の死亡者数トップのがんについても80%近くが誤った認識。
3. ただし、大腸がん検診受診経験のある女性は、「女性で最も死亡者数が多いがんは大腸がん」ということを正しく認識している割合が多い。

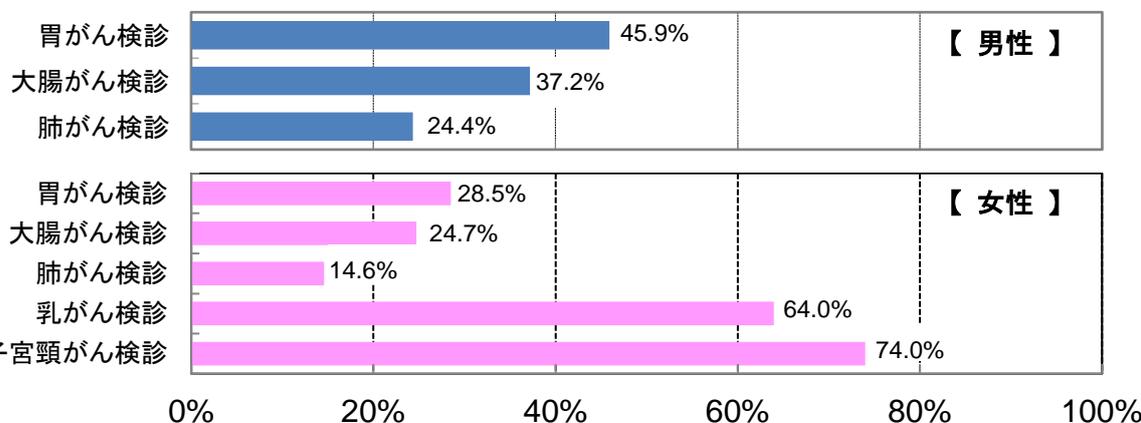
●アンケート結果に関する詳細データ

1. 国が指針として定める5つのがん検診において、女性特有のがんである乳がん、子宮頸がんについては、女性の多くが検診を受けていると答えているのに対し、胃がん、大腸がん、肺がんに関しては、女性は男性よりも全てにおいて10ポイント以上も経験者が少ないという結果が出ました。

【Q.今までに受けたことがある「がん検診」を全てお答えください(男女別・全年代)】

男性	受けたことがあると答えた人の割合(%)
胃がん検診	45.9%
大腸がん検診	37.2%
肺がん検診	24.4%

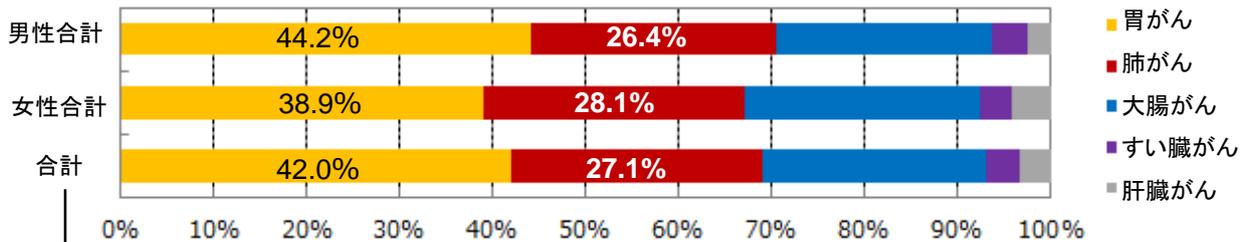
女性	受けたことがあると答えた人の割合(%)
胃がん検診	28.5%
大腸がん検診	24.7%
肺がん検診	14.6%
乳がん検診	64.0%
子宮頸がん検診	74.0%



2. 男性で死亡者数が最も多いがんは肺がんですが、アンケートでは胃がんと回答した人が最も多く、女性は大腸がんによる死亡者数が最も多いのですが、乳がんと回答した人が最多という結果でした。男女別の回答を見ると、男性の死亡者数については、男女の差はそれほど大きくはありませんが、女性の死亡者数については、1位を大腸がんとして正しく回答した女性の割合は、男性の約2倍となっています。

【Q. 男性で年間死亡者数が最も多いのは、どの部位のがんだと思いますか？】

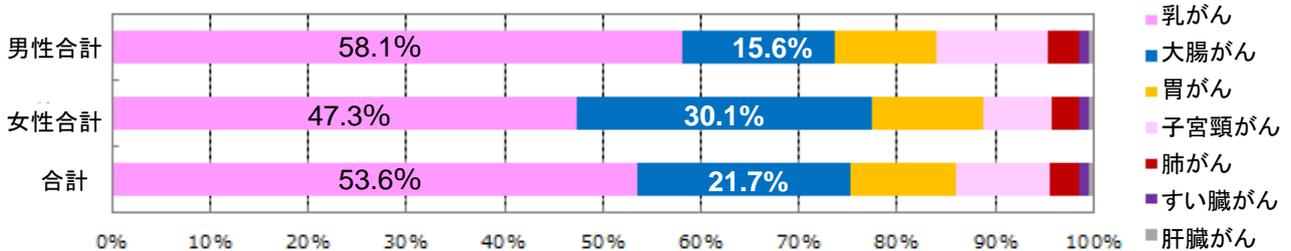
＜アンケートでの回答結果＞



男性	1位	2位	3位	4位	5位
部位別がん死亡者数 (2016年・多い順) ^{※3}	肺	胃	大腸	肝臓	すい臓
アンケート結果	胃	肺	大腸	すい臓	肝臓

【Q. 女性で年間死亡者数が最も多いのは、どの部位のがんだと思いますか？】

＜アンケートでの回答結果＞



女性	1位	2位	3位	4位	5位
部位別がん死亡者数 (2016年・多い順) ^{※3}	大腸	肺	すい臓	胃	乳房
アンケート結果	乳房	大腸	胃	子宮	肺

3. 2の女性の回答を、大腸がん検診の受診経験の有無で分けると、受診経験がある方では、大腸がんと正しく答えた方が40%を超え、乳がんを若干ですが上回って最多という結果が出ています。大腸がん検診を受診されている女性は、「大腸がんが死亡原因としては最多」ということを正しく認識されている方が多いようです。

【Q.女性で年間死亡者数が最も多いのは、どの部位のがんだと思いますか？】

＜女性 大腸がん検診 受診経験有無別の回答結果＞



●アンケート結果の分析・講評：田坂記念クリニック 山口芳美先生(内視鏡指導医)

「がんで亡くなる方を少しでも減らせるよう、がん検診を定期的に行うことで、早期発見・早期治療へ」

今回のアンケートでは、「お亡くなりになる方が最も多いがんは、どの部位のがんと思われるか」をお聞きしたところ、男性で死亡数が最も多いがんは、実際には肺がんなのですが、胃がんと思っておられる方が最も多く、女性では大腸がんが最も死亡者数が多いのですが、乳がんと回答される方が最多という結果になりました。多くの方ががんによる死亡者数について、誤った認識をされているようです。

ただし、女性の回答を、大腸がん検診の受診経験の有無で分けてみると、受診経験がある方では、大腸がんと正しく答えた方が、若干ですが乳がんを上回って最多の回答でした。大腸がん検診を受診されている女性は、「大腸がんが死亡原因としては最も多い」ということを正しく認識されて、実際に検診を受けておられる方が数多くいらっしゃるのだと思います。

大腸がんは、胃がん同様、早期に発見して治療することができれば、高い確率で治る病気です。検診対象年齢の女性で大腸がん検診を受けておられない方も、この事実をしっかりとご認識いただき、がん検診を定期的に行うことで、がんで亡くなる方を少しでも減らせるよう、早期発見・早期治療に心がけていきましょう。



●書道家 武田双雲さんのコメント

当社は、「内視鏡の日」にちなみ、各界で活躍されている方に、内視鏡や検診に関するインタビューを行っています。今回は、書道家の武田双雲さんにお話をうかがいました。武田さんは、2012年に急性胆のう炎の治療のため、腹腔鏡下胆のう摘出手術を受けられました。心配をかけてしまった家族のことを思い、健康管理の大切さを痛感。病気を早期に発見するための検診の重要性をこう語っています。

「もし検診で大きな病気がみつかったら…という恐怖もあります。でも、たとえ自分の身体のことであっても、自分では分からないことがたくさんある。だったら、検診を受けて身体の専門家である医師にみてもらったほうが賢明ですよ。幸いに何も見つからなければ、大きな安心を得られます。検診は、健康に対する自信を得るものなのです。」

・武田双雲さんのインタビュー記事はこちら

(https://www.onaka-kenko.com/interview/interview_03.html)

■アンケートの実施概要

対象： 全国 20 歳以上の男女
方法： インターネット調査
「おなかの健康ドットコム (<https://www.onaka-kenko.com/>)」上の特設ページで実施
期間： 2018 年 2 月 5 日から 3 月 23 日まで
回答者数： 53,429 名 (男性:29,763 名、女性:23,666 名)
設問数： 全 17 問



「7 月 14 日は内視鏡の日」



上部消化管内視鏡検査の様子(イメージ)

- ※1 内視鏡検査とは:上部消化管内視鏡検査は、口や鼻から内視鏡を挿入し、食道、胃、十二指腸の検査を行うものです。大腸内視鏡検査は、肛門から内視鏡を挿入し、大腸の検査を行います。
- ※2 内視鏡の日とは:内視鏡医学のさらなる発展と普及を願い、(財)内視鏡医学研究振興財団が 7 月 14 日を「内視鏡の日」と制定しました。7 と 14 で「内視(ないし)」と読む語呂合わせから日付が決定され、2006 年 7 月に日本記念日協会より認定を受けています。
- ※3 国立がん研究センターがん対策情報センター(全国動態統計より作成)

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。